

教育分野

都市  
基盤分野

産業分野

教育分野

III

2 個性を活かした学校教育の推進

「学校教育金沢モデル」の推進

現状と課題

金沢市では、平成16（2004）年度から「学校2学期制」の導入、教育特区による「小中一貫英語教育」の実施、「学習指導基準金沢スタンダード<sup>※</sup>」を柱とする、金沢独自の学校教育モデルを推進しています。引き

続き、児童・生徒の状況を踏まえた丁寧な指導による学力向上を実現するため、学校教育金沢モデルをいっそう充実させる必要があります。



全国小中学校英語教育特区研究大会



英語公開授業

学年	教科書等	指導内容	目指す英語力	年間標準時数	備考	指導体制
小学1年		【第1期】 聞く・話すを中心とした指導	英語の音に慣れ親しみ 簡単なあいさつができる	10		○学級担任 スクールサポーター制度等で ゲストティーチャーを活用し、 自然な英語に触れる機会を設ける
小学2年			身の回りのものを 英語で言い、 簡単な自己紹介ができる	35 +α		
小学3年	金沢版 小学校英語 副読本1	【第2期】 聞く・話すを重視し 読む・書くを段階的に指導	身近な人の紹介や簡単な 文を読んだり書いたりできる		αは、 ショート タイムでの 指導時間	○学級担任と指導講師等 英語指導講師、 英語インストラクター とのT.T
小学4年	金沢版 小学校英語 副読本2		中学1年の前期程度の学力			
小学5年	中1用 教科書	【第3期】 聞く・話すを 読む・書くに つなげる指導	中学2年の前期程度の学力	140 (+α)	αは、 選択教科 「英語」での 指導時間	○英語教員 必修英語及び選択教科「英語」を担当 ○ALT(外国語指導助手) 必修英語及び選択教科「英語」 での英語教員とのT.T ○英語指導講師 選択教科「英語」及び 生徒の学習状況に応じた 補充指導など
小学6年			中学3年の後期程度の学力			
中学1年	中2用 教科書	【第4期】 バランスのとれた 4技能指導	高校1年の前期程度の学力			
中学2年	中3用 教科書					
中学3年	4技能指導 用教材					

基本方針

学校教育金沢モデルを推進し、すべての学年・教科において学力向上をめざします。また、子どもたちがグローバル社会の

中で生きていくための広い視野と豊かな国際感覚を育てていきます。

事業計画（主な事業とその内容）

〔2学期制を活かしたきめ細かな指導と評価〕

国の基準を超える授業時数を確保し、丁寧な指導と評価を徹底するとともに、学期途中の学習状況を保護者及び児童・生徒に伝えます。また、学期途中となる夏休み等の長期休業期間においても、サマースクールの充実や家庭訪問等の実施により、学習の継続性を確保します。

〔小中一貫英語教育の充実〕

英語指導講師とインストラクター等の安定確保を含め、担当指導教員の資質の向上と指導体制の充実を図っていきます。また、定期的に副読本を改訂するとともに、能力判定テスト等を実施し、英語力の状況を把握していきます。

〔学習指導基準金沢スタンダードの実践〕

学力調査により、金沢市の児童・生徒の得意・不得意な分野等の状況を検証し、これに対応した形で学習指導基準金沢スタンダードを定期的に見直し、指導に活かします。

〔それぞれの子どもに応じた授業の充実〕

学校の状況により少人数授業やチームティーチングを推進し、子ども一人ひとりに応じたきめ細かな指導の充実を図っていきます。

市民参加と協働

- ・教育に対する保護者の関心意識の醸成と家庭学習の重要性の周知
- ・英語指導講師やインストラクターの公募
- ・サマースクールの指導者や教科指導補助者としての地域人材の活用

※学習指導基準金沢スタンダード  
学習指導要領で定められた目標を達成するため、金沢市児童生徒の学力の状況に基づき内容やその取り扱いにおいて、全ての市立小中学校が共通に取り組み本市独自の学習指導基準。小学校では国・社・算・理の4教科、中学校では国・社・数・理・英の5教科で定めており、重点的に指導する内容と発展的な内容の授業を実施。



都市  
基盤分野

産業分野

教育分野

## 教育分野

# III

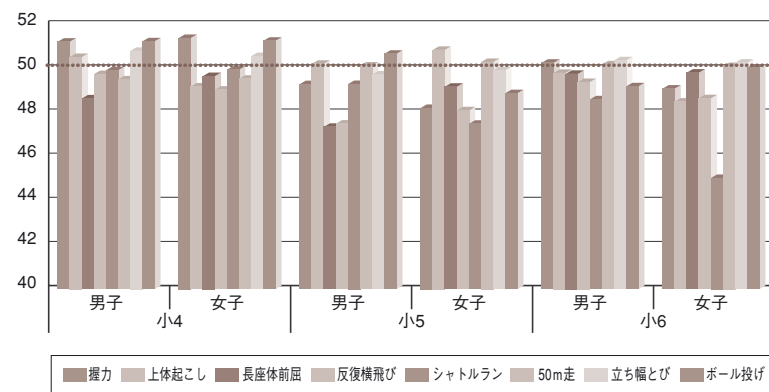
## 2 個性を活かした学校教育の推進 多様な教育の推進

### 現状と課題

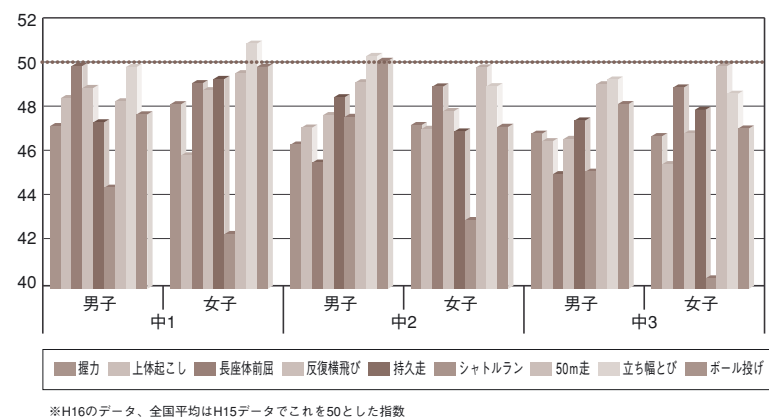
近年、家庭や地域の教育力の低下が指摘される中、不登校児童生徒数の増加や原因の複雑化、問題行動の低年齢化、子どもの体力や運動能力の低下など子どもの状況も大きく変化しています。これらの課題に対

処しながら、子どもの豊かな心の育成と体の健康保持・増進を図るとともに、豊かな人間性の育成を図る教育が求められています。

■ 児童生徒の体力・運動能力の全国平均と比較（小学生）



■ 児童生徒の体力・運動能力の全国平均と比較（中学生）



教育プラザ富樫

### 基本方針

コミュニティを活かしながら、知・徳・体の調和の取れた子どもの育成をめざし、多様な教育を進めます。

### 事業計画（主な事業とその内容）

#### 〔心の教育・道徳教育の充実〕

学校教育活動全体を通して心の教育に取り組むとともに、その中心となる道徳の授業時数を確保し、子どもの心に響くよう内容の充実を図ります。また、様々な体験活動を通して道徳心や正義感等の社会性を育成します。

#### 〔特別支援教育の充実〕

特別支援教育担当者を中心とした各学校の校内支援体制を構築するとともに、通常学級に在籍する学習障害（LD）<sup>※</sup>や注意欠陥多動性障害（ADHD）<sup>※</sup>等の発達障害児を含めた特別に支援を要する児童・生徒に対し特別支援教育指導補助員の派遣人数の増加を図るなど、特別支援教育を充実します。

#### 〔健康教育の推進〕

家庭を含む地域、行政、学校が連携し、こころの健康や体力の増進等のテーマに取り組めます。子どもの基礎体力や運動能力は学年が進むごとに低下傾向にあることから、学校教育において外部人材も活用しながら教科体育の充実を図ります。

#### 〔不登校・問題行動への対応〕

学校と教育プラザ富樫が連携しながら、不登校・問題行動についての指導體制を構築します。また、教員の資質向上を図るとともに、スクールカウンセラーや心と学びの支援員等を効果的・機能的に派遣し、保護者や家庭と協力しながら未然防止や解決に向けて取り組みます。

### 市民参加と協働

- ・不登校、特別支援教育の充実のための保護者を含めた市民の協力

※学習障害（LD）  
学習障害とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する、または推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す状態。

※注意欠陥多動性障害（ADHD）  
注意欠陥多動性障害とは、年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力及び衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすもの。

都市  
基盤分野

産業分野

教育分野

### 教育分野

## III

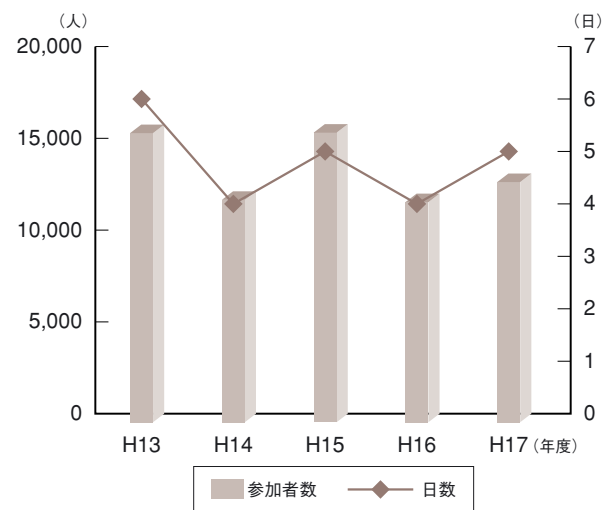
### 2 個性を活かした学校教育の推進

## 地域に開かれた学校づくり

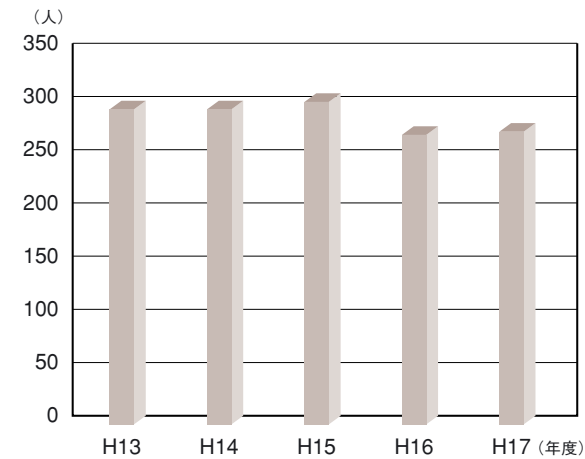
#### 現状と課題

市内の小中学校では多様な学習ニーズに応え、学校施設の有効利用を図るため、体育館や運動場等の学校施設を地域住民に開放してきました。こうした施設の開放だけでなく、今後は中学校学校選択制の導入に伴い、これまで以上に学校情報の公開が求められるようになり、学校が責任ある学校運営を行って説明責任を果たしていくとともに、保護者に家庭教育についての義務や責任を訴えていく必要があります。

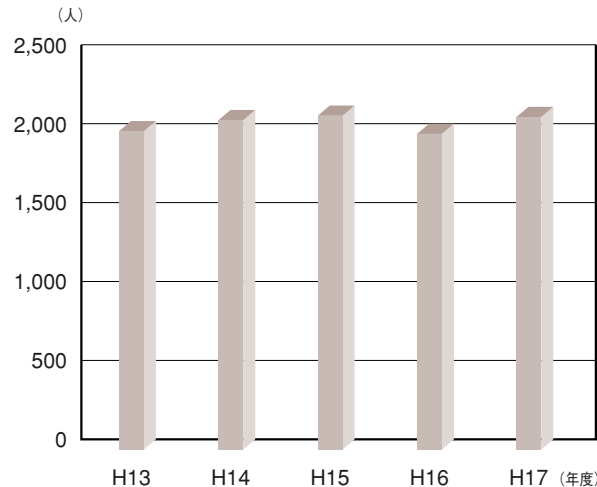
■学校公開週間の日数と参加者数の推移（市立工含む）



■学校評議員数の推移（市立工含む）



■スクールモニター参加者の推移（市立工除く）



#### 基本方針

地域住民のスポーツ活動や学習活動を支援するため、地域の実情に応じた学校施設の開放を進めるとともに、余裕教室の有効利用を図ります。また、学校評議員制度や

全市一斉学校公開週間の実施等により外部評価の充実を図り、地域からの信頼性を高めていきます。

#### 事業計画（主な事業とその内容）

##### 〔学校施設の開放〕

体育館や運動場、生徒の減少に伴って生じている余裕教室を有効に活用するため、地域の実情に応じて社会教育や文化、スポーツ活動等の利用機会を設けます。また、夜間開放の際に必要な照明設備等の整備を進めていきます。

##### 〔学校評議員制度・スクールモニター制度の実施〕

学校長の求めに応じて、保護者や地域の有識者から学校運営について幅広く意見を聞く場を持つ学校評議員制度を引き続き実施します。また、学校外の子どもの様子等を学校に報告する地域ボランティアであるスクールモニター制度の充実を図ります。

##### 〔スクールフォーラムの開催〕

教職員と保護者、地域住民がともに学校づくりに取り組むための話し合いの場であるスクールフォーラムを開催し、多くの市民の参加と内容の充実を図っていきます。

##### 〔全市一斉学校公開週間の実施〕

特定の期間を定め、気軽に幅広く保護者や地域住民が学校や子どもたちの様子を参観するための全市一斉学校公開週間を実施します。

##### 〔外部評価の実施〕

子どもや保護者のアンケートを実施・公開するとともに、外部評価システムの導入を検討します。

#### 市民参加と協働

- ・保護者や地域住民のスクールモニターや外部評価への参加

都市  
基盤分野

産業分野

教育分野

## 教育分野

# III

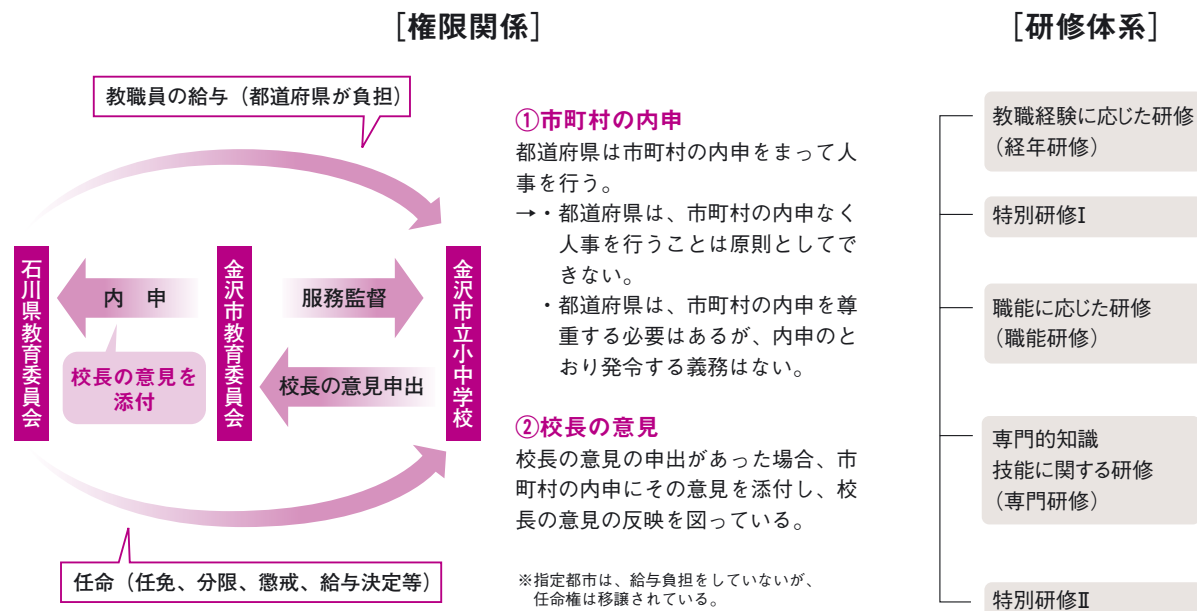
## 2 個性を活かした学校教育の推進 教員の資質向上

### 現状と課題

金沢市では、教職員に対して文部科学省の義務的研修に加え、授業力向上を中心とした専門研修や地域の特色についての基礎知識の涵養のための特別研修等の一般研修を実施するとともに、児童生徒の学力低下、教員の指導力向上の課題に対応するため、

授業力向上セミナー等の特別研修を実施してきました。今後、教職員の任命権の県から中核市への移譲が予想されることから、その推移を勘案しながら、指導・研修体制の強化を図っていく必要があります。

#### ■金沢市立小中学校の教職員の人事に関する権限関係及び研修体系



※金沢市では、平成12年度より教職員への独自の研修を行っている。

### 基本方針

教職員の任命権移譲を視野に入れながら、日々の実践を推進し、質の高い効果的で体系化された教職員研修を実施し、金沢

の個性や魅力を伝えることのできる児童・生徒を育てる教職員を養成します。

### 事業計画（主な事業とその内容）

#### 〔研修プログラムの充実〕

教職員の指導力向上をめざし、初任者研修や中堅教職員向けの10年経験者研修、学校運営における指導者養成研修のほか、教科指導力を高めるための授業力向上セミナーやスーパーバイザー招聘講習を実施します。

#### 〔金沢らしさをつくる特別研修〕

小中一貫英語教育特区のいっそうの充実のための指導技術力向上研修、郷土を愛する心を育てる提案型研修、学力向上をめざした金沢スタンダード活用研修、幼児教育支援のための研究・研修等に取り組みます。

#### 〔学校運営課題に対する研修〕

特別支援研修の年次全員受講や異校種間交流体験研修による子どもの育ちの連続性への理解、授業におけるコンピュータ活用についての技能向上等、学校運営課題に対する研修を実施します。

#### 〔教員評価システムの確立〕

教員に対する評価システムを確立し、状況の把握を行うとともに、評価に応じた処遇によって児童・生徒への指導力向上につなげていきます。

### 市民参加と協働

- ・民間人を登用した教職員研修の実施

都市  
基盤分野

産業分野

教育分野

# 教育分野

## III

### 2 個性を活かした学校教育の推進

# 学校環境の整備・充実

#### 現状と課題

少子化の進行によって金沢市の児童・生徒数は減少傾向にあります。地域別で見ると増加している校下（校区）が見られることから、地域間での不均衡を是正するため学校施設の整備が求められます。また、地域住民の災害時の緊急避難場所としても

利用されることから、老朽化した学校の改修や耐震化を進める必要があります。また、本市の中学校では現在、24校のうち19校で学校給食を実施していますが、完全給食の実施に向けた施設の整備も必要となっています。

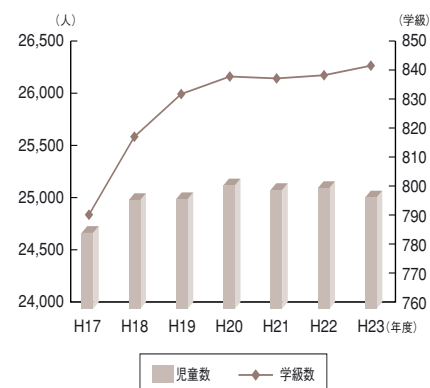


第2田上小学校（仮称）完成予想図

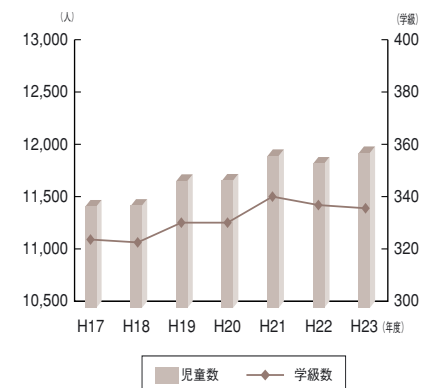


東部共同調理場（仮称）完成予想図

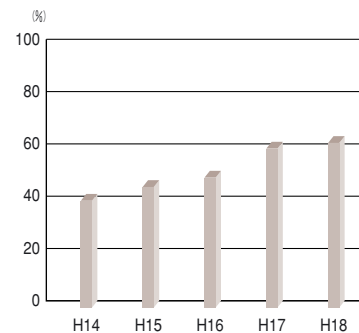
■児童数・学級数の推移  
(推計を含む) (小学校)



■生徒数・学級数の推移  
(推計を含む) (中学校)



■小・中学校の耐震化率の推移



#### 基本方針

地域の児童・生徒数を見極めながら学校施設の

新造改築を進めるとともに、耐震化やバリアフリー化、安全管理対策等を推進することで、安全で安心できる学校づくりを進めていきます。また、施設整備による中学校の完全給食を実施します。

#### 事業計画（主な事業とその内容）

##### 〔学校施設の大規模改造〕

築後20年を経過した校舎について、経年により発生する建物の損傷、機能低下に対する復旧措置及び教育内容に対応するための改装等の大規模改造を促進して教育環境の改善を図り、学校教育の円滑な実施を支援します。

##### 〔安全管理の推進〕

テレビドアホンの設置や職員室、各教室等の窓ガラス透明化、非常階段出入口扉の設置、門扉、フェンスの整備など、学校における児童・生徒の安全確保を図るための管理の充実を図ります。

##### 〔学校施設の耐震化〕

学校施設は、児童・生徒が1日の大半を過ごす生活の場であると同時に、地域住民等の緊急避難場所の役割を果たすことから、学校建物の耐震性能を確保し、防災対策を促進します。

##### 〔給食施設の整備〕

東部共同調理場（仮称）において給食供用を開始するとともに、既存の施設の改修・改築等の整備を進めます。

##### 〔学校の新造改築〕

老朽化した学校を改築するとともに、第2田上小学校（仮称）の新設など、地域の児童・生徒数の変化の状況や校舎の老朽化等に応じて学校施設の新造改築を進めます。

都市  
基盤分野

産業分野

教育分野

## 教育分野

# III

### 2 個性を活かした学校教育の推進

## 市立工業高等学校の整備・充実

#### 現状と課題

今日、科学技術の進展に伴って産業・就業構造の変化が進んでいます。市立工業高等学校では、これまでも社会の変化に合わせた学科の改編等を行ってきましたが、今日の社会情勢や産業界の工業高校に寄せるニーズに対応するとともに、多様化する生徒のニーズに応える学校づくりを進めていく必要があります。

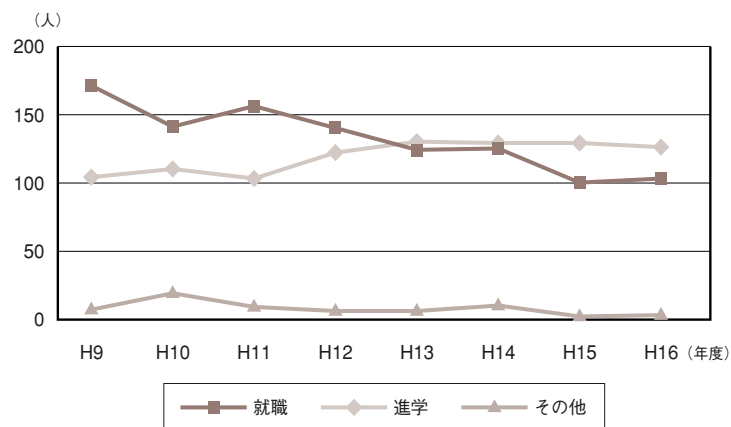


民間技術者による実習授業



市立工業高校新体育館

■卒業生の進路の推移



#### 基本方針

生徒のニーズが多様化していく中、工業教育を生かした進路を自らが選択し、実現することができるようにするために、「ものづくりの基礎知識・技術」、「情報社会に即応した情報処理技術」、「磨かれたデザイン感覚と豊かな創造力」を兼ね備えた生徒を育成するとともに、良好な職業観や勤労観を育むキャリア教育を推進します。

#### 事業計画（主な事業とその内容）

##### 〔民間人技術者の任用〕

民間で活躍している人材を教育現場の教員に登用し、企業で培ったノウハウや体験を踏まえた授業を通して、教職員、生徒等の啓発を図り、学校を活性化させます。

##### 〔職人大学校との連携〕

伝統的な木造建築の「匠の技」の継承と生徒の能力向上のため、職人大学校と連携し、優れた職人による指導を通してその技能と知恵を学んでいきます。

##### 〔デザインサマースクールの開講（美術工芸大学との連携）〕

専門的なデザインの知識・習得や創造性の養成を図るため、金沢美術工芸大学と連携し、夏季休業中に大学の教員等の指導による講座を開催します。

##### 〔21世紀にふさわしい学校づくりのための施設整備〕

築後40年が経過し老朽化の著しい校舎を改築し、最先端技術や環境に対応した学校とするため、平成16（2004）年に整備に着手しました。今後、さらに工業教育のあり方を検討し、工業高校が担うべき役割に適した施設整備を進めます。